

# 消防庁 長官賞

# （防災いっしょ） 住民全員で取り組む 安心・安全の地域づくり

## みつじしゅぼうさいそしき 三津自主防災組織

### 【団体概要】

三津地区は人口約450人で、主産業が漁業であるため海岸から防潮堤を隔ててすぐの場所に密集している。南海トラフ地震の発生が懸念される中、地区の高齢化率が65%と高く、災害時の避難や防災活動の維持が大きな課題である。平成25年から地区を12班に分け、それぞれ防災活動、特に地震・津波の対策に取り組んでいる。

### 【背景】

従来、防災活動は7つの班で行ってきたが、自治会組織12班と同じように再編成し、各班には防災部長を置くことで30~40人の住民を統括、地域住民全員が何かの任務に就き、被災したときは全員で動ける体制とした。防災部長会を年4~5回開催し、防災活動の取組みや資機材整備、避難路整備について話し合いを行っている。

### 【取組の内容】

各班が月1回程度防災倉庫の点検や避難路の整備などを実施しているほか、地域の高齢者などを支援する目的で、各家庭に「安全カード」を配布し、被災時に家族・親族への連絡が取れるように、そして被災時には声をかけ避難できるように3~5人のグループを結成し、日頃から助け合える環境づくりを行っている。

### 【成果】

防災活動を日常的に全員で取り組むことによって、人々の繋がりが出来、防災訓練等への参加者が増加し、防災意識が格段に高くなった。また、防災活動を福祉活動と一体としてとらえ、全員が役割を持ち、整備や点検、訓練を実施することで「やりがい」を再発見することが出来、住民の健康と長寿にも寄与している。



避難場所の整備



夜間避難訓練



要配慮者避難訓練

氏名	性別	かかりつけ 医療機関名	電話
生年月日	平成年月日	血液型	型
同居者		病歴	
		常服薬	
		障害者分類	手帳 障害(種別)
民生委員	常会長	特記事項	
緊急連絡先(要援護者登録者等)1	氏名	氏名	電話
	電話	助け合いたい員1	
緊急連絡先(要援護者登録者等)2	氏名	氏名	電話
	千加	氏名	電話
氏名	千加	氏名	電話
居室介護支援事業所(障害者自立支援事業所)	本人電話		
事業	ケア マネ	本人住所	

安全カード



### 選定委員Comment

高知県室戸岬の東側沿岸部に位置する三津地区は、人口約450人の住宅地だが、高齢化率は実に65%である。昭和21年南海地震時に、大津波による被害が大きかった西岸に比し、東岸の被害は少なく、常襲する台風災害に対する備えはあるが、地震・津波に対する警戒心は薄かったという。三津自主防災組織の防災・福祉活動は、地元中学校の元校長で詩人の島村三津夫氏が三津地区の常会会長に就任した平成25年から、その人脈や企画力、統率力、国際的知見などが随所に生かされ、地元住民の共助により推進されてきた。

まず、地区割を7班から隣近所の共同体単位である12班に戻したところ、江戸時代から続く伝統的な地区住民が分担する「出役」が機能し、各班の防災部長を中心に活動が活発化した。全12地区の防災活動拠点(避難場所)毎に、県・市の補助金に住民の自治会費を加えて防災倉庫を設置し、一部にヘリポートも整備した。一部は港から運んだ廃材や廃物等を使って手作りし、防災拠点に続く避難路は、住民が自力で整備した後、市がガードレールを設置・舗装した。

女子部はフラッグや食料等の後方支援を担い、避難看板は小学生のものを採用した。住民は個々に安全カードを持ち、避難訓練は要支援者に車椅子を使うなど個々の避難方法を検討しつつ実施し、これらを基に、全体を総括する避難マニュアルを作成した。

さらに、平成29年度内閣府の南海トラフ地震・津波避難のモデル地区として調査に協力したり、平成29年から2年続けてJICAの国際防災研修を受け入れ、島嶼国の防災行政官と交流するなど、国内外に三津地区防災の普及・輸出を図ってきた。

地区の老若男女それぞれの創意工夫が実を結ぶ中で、人間関係は深まり、相互協力体制が整ってきている。三津自主防災組織には未だ課題が多いが、皆で協力して解決していく過程に、楽しさや面白さを見出しており、今回の表彰を糧に、さらなる飛躍を期待したい。

- ▶ 設立年  
平成15年
- ▶ 団体構成  
450名
- ▶ 所在地  
高知県室戸市室戸岬町
- ▶ 連絡先  
TEL 0887-22-3159  
E-mail bokenka@tosa.fiberbit.net
- ▶ 取組開始年月  
平成25年4月~

